

講義・演習

「今、求められている 地域と学校との連携・協働の在り方」

講師 県立生涯学習推進センター 五十嵐 和彦

1 連携の必要性: 社会の動向

① 少子高齢化

新潟県の高齢化率は33%であり、2045年頃には日本の総人口の40%が高齢者が占める。

② 地域社会の教育力の低下

③ 地域コミュニティの創出: 学び続ける社会の形成の重要性

2 連携の必要性: 子供たちの教育環境

① 児童生徒数の減少

県内の消滅可能性都市は18市町村あり、ピーク時1055校あった小学校数は、2020年時461校(56.3%減)となった。

② 規範意識に関する課題

平成28年の警視庁のアンケート調査参照

③ 学校課題の複雑困難化

3 コミュニティ・スクールとは

① 「地教行法」改正のポイント

② 仕組みの在り方

ア: 基本方針を承認する

イ: 学校運営について意見を述べる

ウ: 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について意見を述べる

③ 学校運営協議会の設置について



4 コミュニティ・スクール(以下CS)の理念と観点

① 「理念」とは

未来を創り出す子供たちの成長のために、学校のみならず地域住民や保護者等も含め、国民一人一人が教育の当事者となり、社会総掛かりで教育の実現を図るということであり、そのことを通じ、新たな地域社会を創り出し、生涯学習社会の実現を果たしていく。

5 CSと地域学校協働活動の一体的な推進

① 協議から活動へ

② 県の現状と学校現場の課題

一部の限られた参加者、限定的な活動内容、持続困難な体制、関係者間の連携、人材の発掘、発展途上の地域活性化

6 課題を解消し、理念に向かって、今求められている学校と地域の連携・協働の姿を追求するための私案・思案

① 「情報と人を集める」「ドットを増やす」「コーディネートからコラボレートへ」

② ソーシャル・デザインの重要な要素とは、「自分ごと」からはじめる、小さく始める、「楽しさ」という力を生かす、淡々と続く仕組みにする、お客さんを「主体者」にする、「弱いリーダーシップ」を発揮する、ビジョンを共有化する、の7点である。

7 実践事例や県外・他市町村の取組

① 村上市、阿賀野市、佐渡市の実践事例

② 新潟市の「地域と学校のパートナーシップ事業」

③ 島根県豊田市の実践事例

8 コミュニティの重要性とコミュニティを基盤にした施策

9 関係者の主な役割

実践発表「学校を拠点にした地域づくり」の視点

【中・上越】見附市立田井小学校

① 学校に併設されている「北谷南部みつばコミュニティふるさとセンター」の活動が、学校の施設・設備を利用して行われている。

② 代表児童を学校運営協議会に参加させ、地域住民と児童の思いや願いを共有している。

【中・上越】十日町市立中条小学校

① CSマトリックス表による、目指す子供像の共有と評価方法を明示している。

② 「ホッとラウンジ」は、学校の図書室を拠点にした地域住民のお茶会の場であり、地域のこと、子供たちのこと、自分自身のことを語らう場となっている。

【下越】村上市立金屋小学校

① 「おらだり」では、子供たちと地域住民が一堂に集い、よりよい地域づくりを目指してグループワークを行っている。

② 「おらだり育援隊」は、地域住民が主体となり、「子育てにやさしいまち金屋」実現に向けて活動している。

③ 学校のミーティングルームを拠点にしており、まちづくり協議会等の関係機関、大学生と連携して活動を展開している。

【下越】佐渡市立七浦小学校

① コラボレーション文化祭では、地域住民の特技や一芸を披露したり、地域住民が主体となって「アクション・リレームービー」を作成したりした。

② 七浦小学校1日サテライトキャンパス事業とは、子供たちが積極的に地域に出向く活動であり、地域住民と子供たちが地域活性化を共通の目的にして展開している。

③ 「ようこそ！佐渡の達人！シリーズ」は、地域住民が主体となり、大人の学びの場を創出している。

VOICE_受講者の声

「勇気をいただきました。できることから一歩動き出す、地域住民が自ら動き始めるきっかけを学びました。」

「地域との連携・協働がなぜ必要なのかがよく理解できました。地域コーディネーターさんの発表でどんなことができるか具体的なイメージをもつことができました。」

「地域と学校の連携に事務職員の積極的な参画が求められていることを再確認することができました。CSと共同実施を掛け合わせる可能性を感じました。」

「とても内容が濃く、私どもの活動の意義を裏打ちしてくれているようで、また活動のヒントをいただきました。」

「今まで、とても難しい内容だなと思っていた地域コーディネーターの仕事。しかし、一人でやるのではなく、地域をまき込んでみんなで創っていく方法を学ぶことができ、少しハードルが下がったような気がします。」

「CSの大切さを改めて感じました。2022年度からCSスタートに伴い、不安感よりも期待感が増えました。」

個人演習 復習キーワード

- 1 社会的ジレンマ 2 受益性と娯楽性 3 AIDMA 4 アダルティズム
5 ソーシャル・デザイン 6 コミットメント 7 橋渡し型社会関係資本
8 マインドセット【バットとボール、ガンジー、ナインドットパズル】

